

スターチス・シヌアータの冷房育苗による9～11月出し及び12～3月出し栽培法

〔要約〕 スターチス・シヌアータのセル成型トレイ育苗を利用した早出し栽培には、早生種の「ソピア」が適する。9～11月出し栽培は、5月中旬に播種して催芽後に低温処理した苗を昼間25℃、夜間15℃で3週間冷房育苗した苗が利用できる。また、12～3月出し栽培は、7月上旬に播種して催芽後に低温処理を行って3～4週間冷房育苗を行う。

園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	花き類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

スターチス・シヌアータの早出し栽培では、催芽種子の低温処理苗が高温に遭遇すると脱春化し、抽台・開花の遅延と採花本数の減少が著しい。最近、冷房育苗による早出し栽培が行われるようになったが、セル成型トレイ育苗を利用した冷房育苗方法については不明な点が多い。そこで、スターチス・シヌアータの9～11月出し及び12～3月出し栽培における播種時期や冷房育苗期間について明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- ①スターチス・シヌアータのセル成型トレイ育苗を利用した早出し栽培には、早生種の「ソピア」が適する（図1、図2、表1、表2）。
- ②冷房育苗終了時の「ソピア」は、3週間後に3.5枚、4、5及び6週間後にはそれぞれ6.8、7.2、9.4枚の展開葉を着生する（データ略）。
- ③9～11月出し栽培の播種期は5月中旬が適期であり、苗は催芽後に0℃で20日間低温処理を行った後、昼間25℃、夜間15℃で3週間冷房育苗したものがよい（表1）。
- ④12～3月出し栽培は、7月上旬に播種して催芽後に0℃で30日間低温処理を行った後、3～4週間冷房育苗を行うとよい（図2、表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①スターチス・シヌアータの早出し栽培地域における脱春化防止技術として活用する。
- ②7～8月の高温期に定植する場合には、寒冷しゃ等でしゃ光を行って活着を早める。
- ③定植前の窒素施肥量は、10a当たり7kg程度の少肥とする。

[具体的データ]

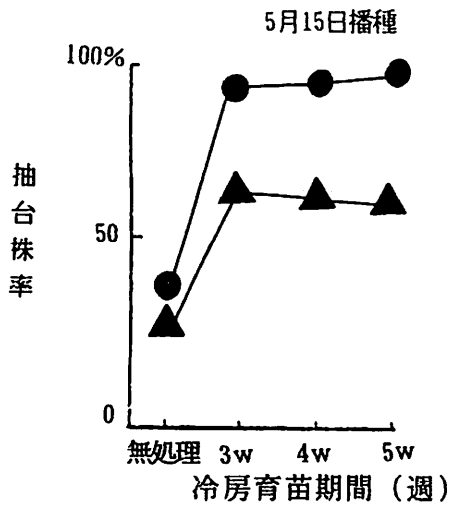


図1 9~11月出し栽培における冷房育苗期間と抽台株率 (平成3年)

注) ①●—● : ビア, ▲—▲ : アーブル
 ②低温: 催芽種子の低温処理 (0°C20日間)
 ③抽台株率は11月末日まで
 ④冷房育苗温度: 昼温25°C, 夜温15°C (以下同じ)

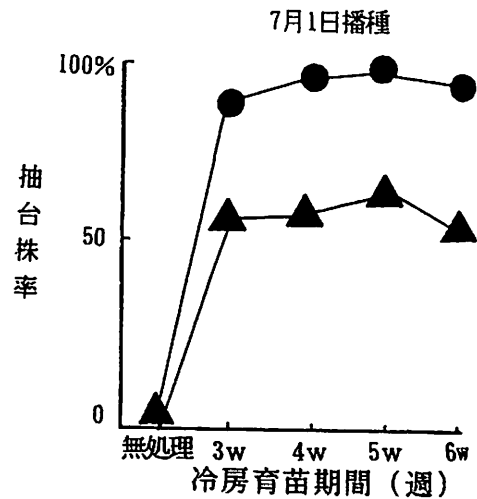


図2 12~3月出し栽培における冷房育苗期間と抽台株率 (平成4年)

注) ①●—● : ビア, ▲—▲ : アーブル
 ②低温: 催芽種子の低温処理 (0°C30日間)
 ③抽台株率は12月末日まで

表1 9~11月出し栽培における冷房育苗期間が採花本数と切花長に及ぼす影響 (平成3年)

品種	処理方法	採花本数 (10株)				計	切花長 cm
		9本	10本	11本	12月本		
ソビア	無処理		3	4	2	9	73
	3週間	37	12	11	10	70	66
	4週間	24	16	10	11	61	69
	5週間	23	12	9	16	60	70
アールブル	無処理	3	2	1	-	6	59
	3週間	11	3	1	1	16	64
	4週間	8	7	2	-	17	67
	5週間	6	5	3	1	15	72

注) 播種時期: 平成3年5月15日

表2 12~3月出し栽培における冷房育苗期間が採花本数と切花長に及ぼす影響 (平成4年)

品種	処理方法	採花本数 (10株)					計	切花長 cm
		11本	12本	1本	2本	3月本		
ソビア	無処理	-	-	-	7	13	20	83
	3週間	25	10	20	3	11	69	94
	4週間	24	17	11	6	10	68	102
	5週間	17	10	15	10	13	65	103
	6週間	3	8	9	8	11	39	107
	アールブル	無処理	-	-	3	3	10	16
3週間		9	4	4	7	13	37	110
4週間		5	3	9	4	9	30	116
5週間		10	3	12	9	11	45	121
6週間		2	2	9	3	13	36	120

注) 播種時期: 平成4年7月1日

[その他]

研究課題名: 高温障害対策技術の開発

予算区分: 国庫 (地域重要)

研究期間: 平成5年度 (平成3~5年)

研究担当者: 小林泰生、谷川孝弘、坂井康弘

発表論文等: 平成3~5年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書

園芸学会雑誌第62巻別冊2.